

# 平成23年度 猪名川町・小学校 学習到達度調査の結果について

猪名川町教育委員会学校教育課

## ■調査目的

- 猪名川町の小学校児童の学習状況を調査し、領域、観点、基礎・活用ごとにその結果を示すことにより、学習指導上の問題点および改善点を明らかにする。

## ■調査内容

- 調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて学力調査を実施した。

## ■調査対象

- 町内の公立小学校第5学年の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

## ■調査日

- 平成23年4月19日（火）

## ■調査結果

### 【小学校の調査結果】

		調査結果（町）	期待正答率	全国平均
小学校 第5学年	国語	72.0	68.1	71.1
	算数	79.6	70.9	77.1

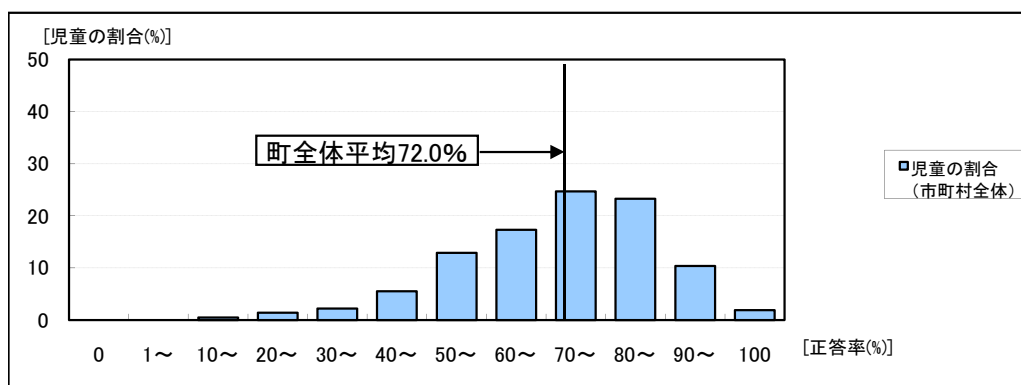
## ■ 小学校第5学年【国語】

### (1) 国語の正答率

期待正答率	町全体
68.1%	72.0%

\* 小5国語の町全体の正答率は72.0%で、期待正答率を3.9ポイント上回っている。

正答率	町内全体											
	0	1～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～	100
児童の割合 (市町村全体)	0.0	0.0	0.5	1.4	2.2	5.5	12.9	17.3	24.7	23.3	10.4	1.9

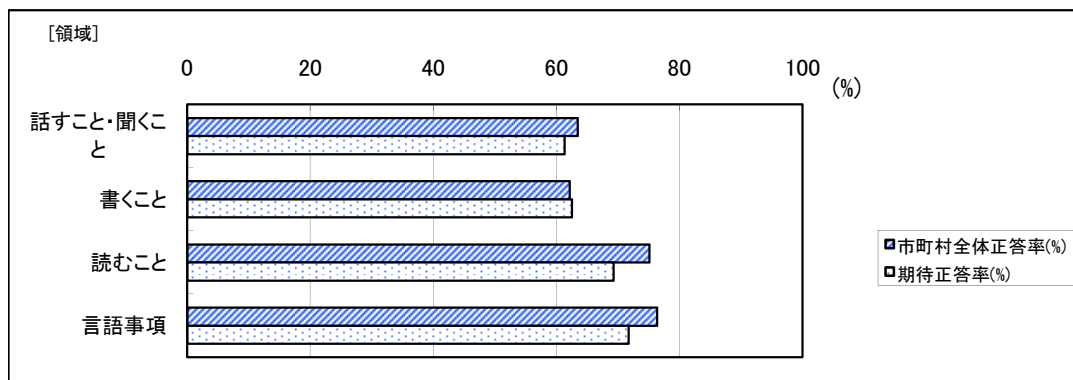


\* 町全体で正答率80%以上の児童が35.6%を占めている。一方で、正答率50%未満の児童が9.6%存在する。

## (2) 領域別正答率

町内全体

	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
市町村全体正答率(%)	63.5	62.1	75.1	76.3
期待正答率(%)	61.3	62.5	69.3	71.7
期待正答率との差	2.2	▲ 0.4	5.8	4.6



### ① 話すこと・聞くことの領域

期待正答率61.3%に対して町の正答率は63.5%と上回っている。話す・聞く領域はおもに大問1であり、全ての小問で期待正答率を上回るか期待正答率に近い正答率であった。小問(1)の発言者の発言内容に例を付け加えたとしたらどれを選ぶか、という問題は、わずかながら期待正答率に届いていない。発言内容が「町について調べる」というとらえにくいものだったことと、発言者の発言内容を正確に聞き取り、選択肢と照らし合わせるという作業が必要なため、難しかったと思われる。単に発言内容を正確に聞き取るだけでなく、発言者の意図を考えて聞き取れるように指導したい。

### ② 書くことの領域

期待正答率62.5%に対して、町の正答率は62.1%とわずかながら下回っている。書く領域での問題は、大問7の作文問題に集約されている。条件指定として、字数制限(121字～180字)、2段落構成、第一段落に「学校の自慢できること」を、第二段落に「自慢できる理由」を書かせる問題だが、段落構成と字数制限について、期待正答率を下回っている。作文においては、内容を指示通りに書くのはもとより、字数や段落構成についても、指示通りに書けるかどうかが重要である。原稿用紙の使い方も含め、普段の授業から、指示通りに書くことに慣れさせたい。

### ③ 読むことの領域

読む領域での問題は、大問4・5・6で、説明文、文学作品、パンフレットを読み取る問題であった。期待正答率69.3%に対して町の正答率は75.1%と5.8ポイント上回った。文学作品で主題を押さえ、登場人物の心情を汲みながら読むことについては良好な状況にある。しかし説明文での文の要旨を問う問題や、パンフレットの読み取りでの話し合いの要点をまとめる問題では、期待正答率を下回った。読解問題では、段落ごとに何を述べているのかをつかみながら、さらに全体としての筆者の意図をつかまなくてはならない。部分的に正確に読み取り、それを集約して全体の要旨がわかるような読み取り方を指導する必要がある。

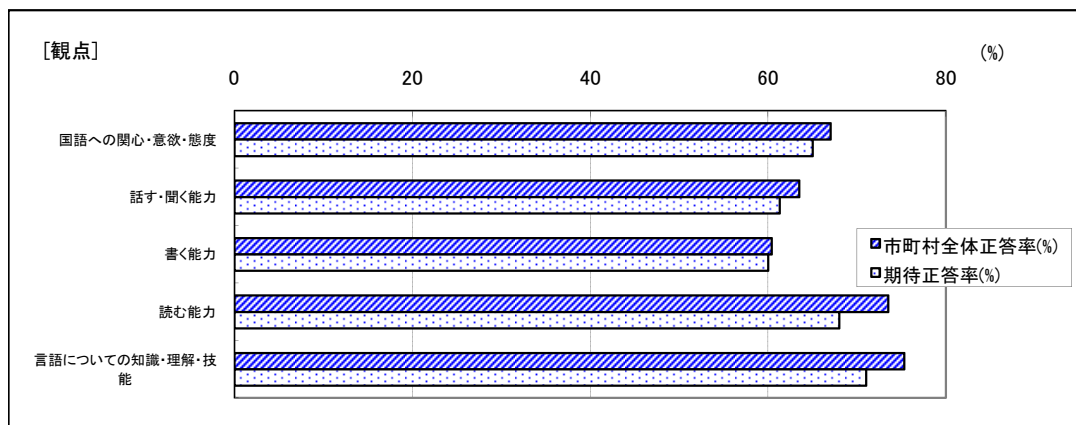
### ④ 言語事項

期待正答率71.7%に対して町の正答率76.3%と4.6ポイント上回った。大問3の言葉の学習に関する問題では、(1)②が期待正答率を10ポイント以上下回った。また、漢字では大問2(2)④の「改める」が期待正答率を6.2ポイント下回った。特に、大問3(1)②では、被修飾語として「戸」を選択した児童が40.3%いたが、「ゆっくりと」が「開き」を修飾していると考えず、「何が」「ゆっくりと」しているかを考えて解答しているケースが多い。修飾・被修飾の基本的な関係をもう一度徹底して指導する必要がある。

### (3) 観点別正答率

町内全体

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
市町村全体正答率(%)	67.0	63.5	60.4	73.5	75.3
期待正答率(%)	65.0	61.3	60.0	68.0	71.0
期待正答率との差	2.0	2.2	0.4	5.5	4.3



#### ① 国語への関心・意欲・態度

期待正答率65.0%に対して町の正答率は67.0%と2.0ポイント上回った。ペーパーテストによる国語科への関心・意欲・態度を評価することはかなり難しいが、小問ごとに主たる観点と従たる観点を設け、従たる観点として大問1と大問7を設定した。話し合いの聞き取りと作文についてである。中でも、無解答率を見てみると、話し合いの内容の聞き取りの記述問題で12.3%、作文で17.3%となっており、記述問題に対する抵抗感がある児童が多いと思われる。「まずは書いてみる」という意識を持たせるために、日頃から書く作業を授業に取り入れ、書くことに慣れさせる必要がある。

#### ② 話す・聞く能力

期待正答率61.3%に対して町の正答率は63.5%と2.2ポイント上回っている。おおむね達成できているが、よりコミュニケーション能力を高めるために、今後も重点的に指導していきたい。話し方の工夫については、聞く立場ではなく話す立場にならないとなかなか意識できない。自分の意見をうまく伝えるためにはどう話を組み立てればよいかを考えさせ、その視点を持って他の人の意見を聞くように、授業の中で繰り返し指導していきたい。

#### ③ 書く能力

期待正答率60.0%に対して、町の正答率は60.4%とほぼ同程度である。作文については、単に自分の意見をうまく書くだけではなく、相手に伝えるにはどうすればいいかという目的を持たせたり、場面に合った書き方を意識させたりする必要がある。この問題の場合、相手は「地いきの人」で「けいじ板で知らせる」ということを念頭に書かなければいけない。そういった意識付けを持って書くことができるように指導することが大切である。

#### ④ 読む能力

期待正答率68.0%に対して、町の正答率は73.5%と5.5ポイント上回っている。活用問題にもあるように、物語文や説明文だけではなく、対話文から流れをつかんだり、グラフやパンフレットなどの非連続型テキストから情報を読み取ったりするなど、「読む力」に要求される内容は複雑化している。日頃からさまざまな形式のテキストに触れさせ、形式によって苦手意識を持たないようにする必要がある。

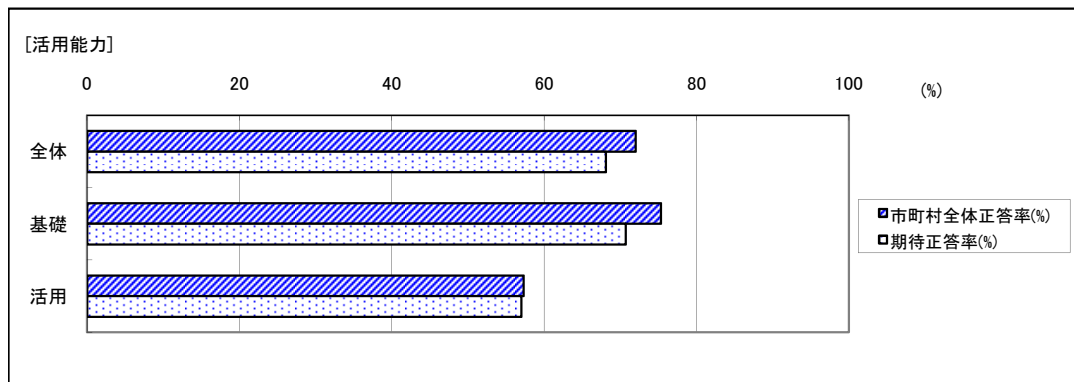
#### ⑤ 言語についての知識・理解・技能

期待正答率71.0%に対して、町の正答率は75.3%と4.3ポイント上回っている。特に指示語や修飾語については、主語・述語と並んで全国的に課題であるが、授業で扱う教材の中でも、意識的に教材の中から特徴的な文を取り上げ、文の構造について定期的に押さえておく必要がある。特に、長文読解の場合も、指示語はどの部分を指しているのか、係り受けはどうなっているか、という基本的なことを押さえていないと内容がつかめない。折に触れ授業で取り上げ、しっかりと定着させたい。

#### (4) 基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村全体正答率(%)	72.0	75.3	57.3
期待正答率(%)	68.1	70.7	57.0
期待正答率との差	3.9	4.6	0.3



\* 基礎・活用別にみると、基礎は期待正答率を4.6ポイント上回ったが、活用は0.3ポイントとほぼ同程度であった。

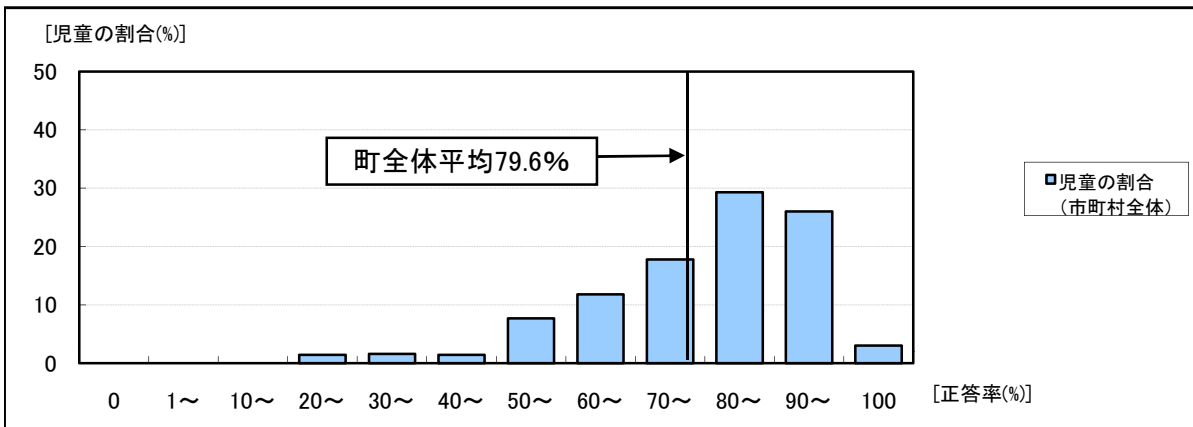
## ■ 小学校第5学年【算数】

### (1) 算数の正答率

期待正答率	町全体
70.9%	79.6%

\* 小5算数の町全体の正答率は79.6%で、期待正答率を8.7ポイント上回っている。

		町内全体											
正答率		0	1~	10~	20~	30~	40~	50~	60~	70~	80~	90~	100
児童の割合 (市町村全体)		0.0	0.0	0.0	1.4	1.6	1.4	7.7	11.8	17.8	29.3	26.0	3.0

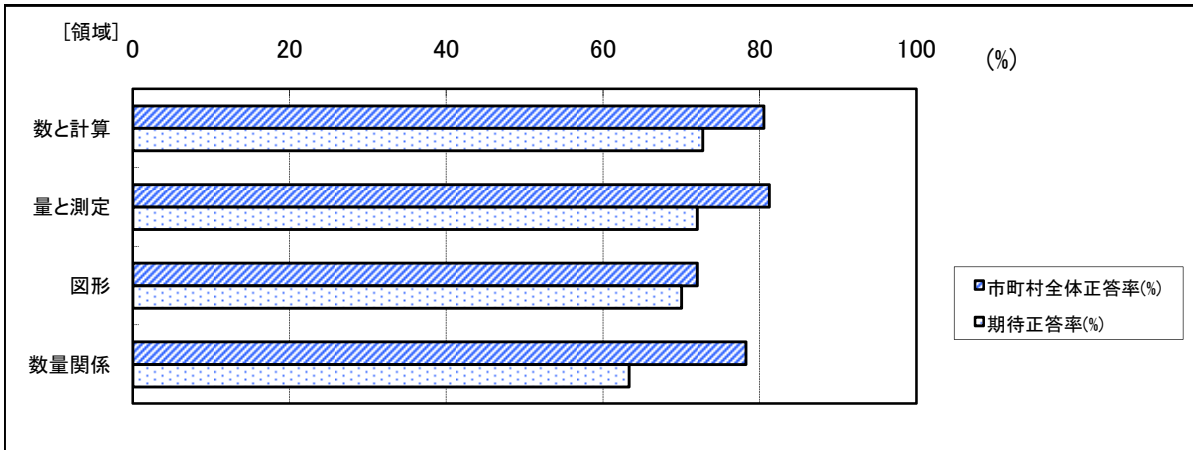


\* 町全体では、正答率80%以上の児童が58.3%を占めている。一方、正答率50%未満の児童が4.4%存在する。

## (2) 領域別正答率

町内全体

	数と計算	量と測定	図形	数量関係	
市町村全体正答率(%)	80.5	81.2	72.0	78.2	
期待正答率(%)	72.7	72.0	70.0	63.3	
期待正答率との差	7.8	9.2	2.0	14.9	



### ① 数と計算

期待正答率72.7%に対して町の正答率は80.5%で7.8ポイント上回った。24問中3問で期待正答率を下回っているが、位取りや小数など、つまづきやすい計算問題が下回っている。基礎的な計算の反復練習を行うとともに、ケアレスミスをなくすように、解いた後に見直すことも徹底させたい。

### ② 量と測定

期待正答率72.0%に対して町の正答率は81.2%で9.2ポイント上回った。この領域のすべての小問が期待正答率を上回り、定着しているといえる。ただし、大問11(3)の角の大きさの見当をつける問題は、期待正答率より2.5ポイント上回っただけでほとんど同程度である。この問題に関連して、 $180^\circ$ より大きい角度を測るには、 $180^\circ$ の補助線を引き、分度器で残りの角度を測ればよいことも指導しておきたい。

### ③ 図形

期待正答率70.0%に対して町の正答率は72.0%で2.0ポイント上回った。大問14は正答率58.4%に対して、誤答である選択肢②を選んだ児童が26.0%いた。これは「垂直」を「平行」と間違っている児童が多く、用語の意味を理解できていないということを意味する。「平行」「垂直」の概念は、折に触れ図形を使用するなどしてしっかりと身につけさせることが必要である。

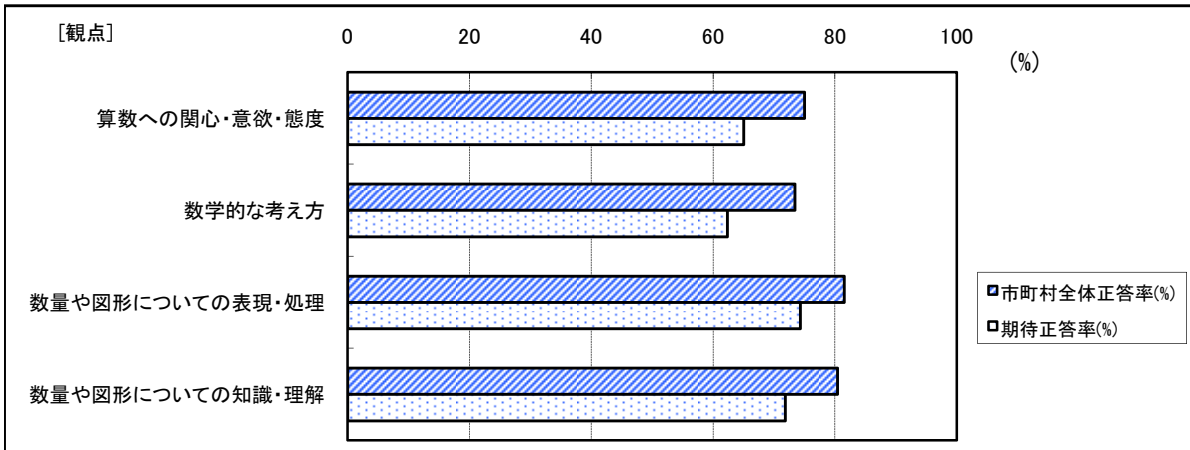
### ④ 数量関係

期待正答率63.3%に対して町の正答率は78.2%で14.9ポイント上回った。ほとんどの小問が、期待正答率を10ポイント以上上回り、大変良好な結果である。折れ線グラフ・二次元表の読み方や、四則混合・分配法則など、よりいっそうの定着を図りたい。

### (3) 観点別正答率

町内全体

	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解	
市町村全体正答率(%)	75.0	73.4	81.5	80.4	
期待正答率(%)	65.0	62.3	74.3	71.8	
期待正答率との差	10.0	11.1	7.2	8.6	



#### ①算数への関心・意欲・態度

期待正答率65.0%に対して町の正答率は75.0%で10.0ポイント上回った。ただし、折れ線グラフのよさを記述する問題で7.1%、時刻や料金などさまざまな情報から立式し問題解決して、理由を書く問題で9.6%と、記述式の問題に無解答が多い。日頃から、図形やグラフの特徴などを話し合わせる際に、自分の言葉で説明できるようにノートに書かせるなど、記述することに慣れさせておく工夫が必要である。

#### ②数学的な考え方

期待正答率62.3%に対して町の正答率は73.4%で、11.1ポイント上回っている。ただし、電車とバスの乗車時間を求めて比較する問題については、期待正答率を下回っている。数学的な考え方を育成するためには、児童の発達段階や単元の指導内容に適した形式で、親しみやすい教材や、さまざまな図・表・グラフなどを用いて、自分の考えを説明したり、クラスで発表したりするなどの活動が重要である。

#### ③数量や図形についての表現・処理

期待正答率74.3%に対して町の正答率は81.5%で、7.2ポイント上回っている。今回はほとんどの期待正答率を10ポイント以上上回っているが、あまりのあるわり算は、計算問題ならできても、文章題となると苦手とする児童が多い。基本的な計算はもとより、文章題に苦手意識を持たないように、普段の授業から慣れさせておきたい。

#### ④数量や図形についての知識・理解

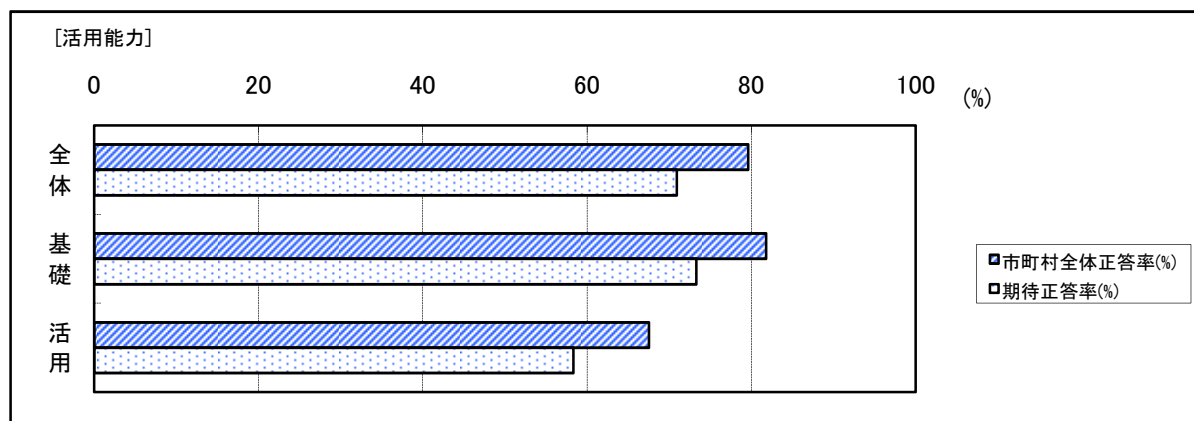
期待正答率71.8%に対して町の正答率は80.4%で、8.6ポイント上回っている。その中で、長方形の辺どうしの関係を問う問題は、期待正答率を11.6ポイント下回っている。「垂直」や「平行」という位置関係は、図形学習における重要な概念である。授業の中で、三角定規やコンパス、分度器による測定や作図を通して「垂直」や「平行」についての理解を深め、それらをもとに台形や平行四辺形、ひし形などの図形への学習を進め、理解を確実なものとしたい。



#### (4) 基礎・活用別正答率

町内全体

	全体	基礎	活用
市町村全体正答率(%)	79.6	81.8	67.5
期待正答率(%)	70.9	73.3	58.3
期待正答率との差	8.7	8.5	9.2



\* 基礎・活用別に見ると、基礎は期待正答率を8.5ポイント、活用は期待正答率を9.2ポイントそれぞれ上回り、良好な結果であった。